

災害が起きたら…女性は3割がトイレ、1割がペットを心配

～安否確認手段に年代格差…高齢層は通話で、若年層はLINEで～

国内1,300社超が利用する日用品流通の情報基盤を運営する株式会社プラネット（所在地：東京都港区、代表取締役社長：田上正勝）は、消費財や暮らしにまつわるトピックスをお届けする『Fromプラネット』の第92号として、防災対策に関する意識調査の結果をご紹介します。バックナンバー https://www.planet-van.co.jp/news/from_planet.html

■ 最も備えるべき身近な脅威はやはり…

地震、台風、豪雨…自然災害の多い日本では備えが欠かせません。今回は、防災対策をテーマにアンケートを実施。災害時に心配なことや、防災用に備蓄しているもの、災害時の安否確認の手段などについてまとめました。

まずは、最も身近で備えが必要だと思う災害は何かを聞きました。いちばん多かったのは「地震」76.7%で、4人に3人以上。地震大国と呼ばれる日本では当然の結果と思われます。1位とはかなり数値が離れますが、2位「台風」11.9%、3位「豪雨・洪水」4.6%、4位「豪雪」1.6%、5位「津波」1.4%、6位「土砂災害」0.9%という順になりました。

■ 備えるべきは「地震」 関東では86%

エリア別に見ると、ほぼすべてのエリアで「地震」の数値が最も高く、中でも最も高かったのは「関東」の86.6%。次いで「近畿」の76.9%、「東海」75.6%の順でした。首都直下型地震や南海トラフ地震の発生が懸念されている「関東」「東海」、また阪神・淡路大震災を経験し、直近でも大阪府北部地震に見舞われた「近畿」が上位に入りました。

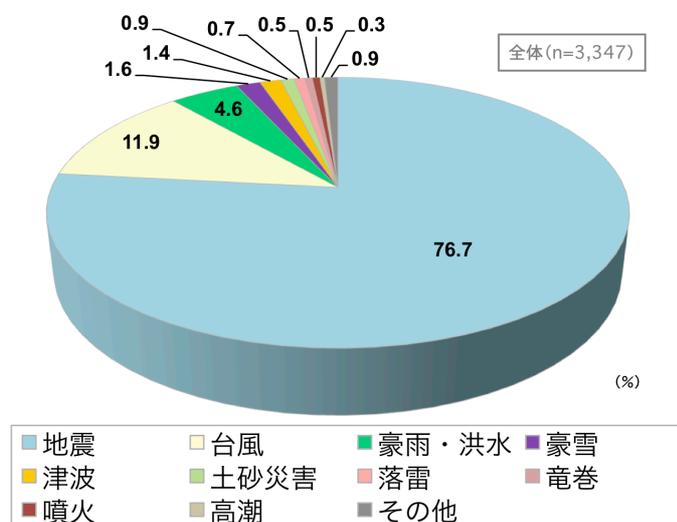
最も低かったのは「九州・沖縄」41.6%で、最高値の「関東」とは45.0ポイント（以下、pt）も差がありました。九州は2016年

に熊本地震で甚大な被害を受けていますが、地震以外の災害も多く、またここでは「沖縄」も含まれるため、ほかの災害が先にくるのかもしれませんが。「九州・沖縄」は全エリアのうちで唯一、「地震」を抑え、「台風」が45.5%で最も高くなっていました。「台風」は、「中国」より西南のエリアで高くなる傾向が見られました。

一方で、「地震」の数値が「九州・沖縄」に次いで低かったのが、「中国」51.1%、「北陸」50.0%です。「中国」は、「豪雨・洪水」が全エリア中最も高く、8.8%。このアンケートの回答時期が、ちょうど平成30年7月豪雨と近かったことも影響しているかもしれません。

「北陸」は、「豪雪」が他のエリアに比べて飛び抜けて高く、18.2%でした。「豪雪」が次いで高かったのは、「東北」10.8%、「北海道」10.6%、「甲信越」4.8%。その他のエリアは0%～1%台しかなく、限定したエリアのものであることがわかります。

表1 「あなたにとって最も身近で備えが必要だと思う災害は何ですか」 についての回答



《 エリア別 》

	合計 (n)	地震	台風	豪雨・洪水	豪雪	津波	土砂災害	落雷	竜巻	噴火	高潮	その他
全体	3347	76.7	11.9	4.6	1.6	1.4	0.9	0.7	0.5	0.5	0.3	0.9
北海道	151	69.5	7.3	6.0	10.6	2.6	1.3	1.3	0.7	0.7	0.0	0.0
東北	148	69.5	10.1	4.1	10.8	1.4	0.7	0.7	0.0	2.0	0.0	0.7
甲信越	105	69.4	4.8	7.6	4.8	0.0	3.8	2.9	0.0	3.8	0.0	2.9
関東	1528	86.6	6.5	3.3	0.1	0.8	0.2	0.6	0.6	0.2	0.2	0.9
東海	331	75.6	12.4	4.5	0.3	2.4	0.9	0.3	0.6	1.2	0.9	0.9
北陸	66	50.0	18.2	7.6	18.2	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	1.5	3.0
近畿	628	76.9	12.1	5.7	0.0	2.1	1.1	0.3	1.0	0.0	0.2	0.6
中国	148	51.1	30.4	8.8	1.4	1.4	4.1	0.7	0.0	0.0	1.4	0.7
四国	69	71.1	20.3	1.4	0.0	2.9	2.9	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0
九州・沖縄	173	41.6	45.5	6.4	0.6	1.7	1.2	1.2	0.0	0.6	0.0	1.2

全体 ■ +10% ■ +5% ■ -5% ■ -10% (%)

調査機関：インターワイヤード株式会社が運営するネットリサーチ『DIMSDRIVE』実施のアンケート「防災対策」。

期間：2018年7月4日～20日、DIMSDRIVEモニター3,347人が回答。表2～表6、エピソードも同アンケートです。

■ 女性は3割がトイレ、1割がペットを心配

次に、災害が起きたとき、特に心配なことは何かを聞きました。すると、1位は「断水」60.8%、2位「停電」58.1%と約6割で並び、3位が「食料・飲料の不足」26.8%、4位「トイレが使えない」23.2%、5位「家屋の損傷・倒壊」18.8%、6位「ガスの供給停止」18.6%と続きました。やはり、ライフラインの要として「断水」「停電」を心配する人が最も多いことがわかります。さらに、「食料・飲料の不足」と「トイレが使えない」が20%台で、生きるために食べること、そして排泄の心配が大きいことがうかがえました。

男女差に注目すると、4位の「トイレが使えない」で最も差が大きく、女性では男性を10.4pt上回って、29.6%と3割。男性では「家屋の損傷・倒壊」よりわずかに低く5位ですが、女性では「食料・飲料の不足」より5.5pt高く、3位にアップしています。

「トイレが使えない」に次いで男女差が大きかったのが、「ペットのこと」(6.2pt差)。男性では3.0%ですが、女性では9.2%と約1割。近年、避難所でペットをどう受け入れるかが問題になっていますが、家族同然のペットを災害時どうするか、女性にとっては特に気がかりなようです。「被災生活」も、女性が男性を4.1pt上回り、慣れない避難所や仮設住宅で暮らすことは、女性にとって不安な要素が多いことがうかがえます。

■ 災害のため備蓄している人は2年前と変わらず、5割以下

今度は、災害時に備えて、自宅で防災用品や生活必需品を備蓄しているかを尋ねました。すると、「備蓄していない」が52.4%で「備蓄している」が47.6%。「備蓄している」人は半数に満たない結果となりました。2016年に行ったアンケートでは、「備蓄している」は45.0%。わずかに2.6pt増加していますが、ほとんど変化していません。

備蓄している人には、さらに、何を備蓄しているかを聞きました。すると、1位「飲料水」87.9%、2位「ランタン・懐中電灯・ローソク」67.8%、3位「トイレ用ペーパー、ティッシュペーパー」61.0%、4位「乾電池」55.0%、5位「非常時用の食品(非常食)」53.6%、6位「ラジオ」49.8%と続きました。

男女差に注目すると、ほとんどの項目で女性のほうが高くなっていました。男女差が最も大きかったのが「食品用ラップ」(20.8pt差)、次いで「マスク」(16.4pt差)、「お菓子類(チョコレートなど)」(14.7pt差)、「日常消費している食料品」(13.5pt差)となっています。一方、男性のほうが女性より高かったのは「ラジオ」(5.5pt差)、「ランタン・懐中電灯・ローソク」(1.6pt差)、「乾電池」(0.5pt差)でした。男性は非常時に備える気持ちが強く、女性は被災後のさまざまな生活シーンを想定して備蓄しているように思えます。

表2 「災害時に、あなたが特に心配なことは何ですか (3つまで回答)」 についての回答

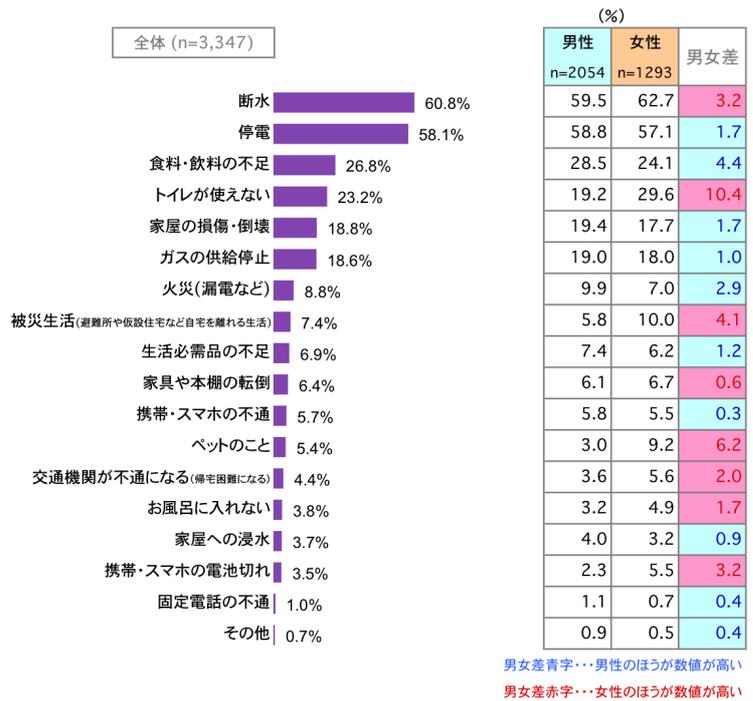
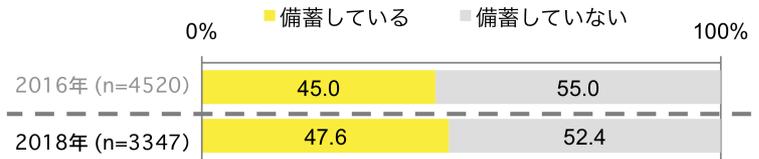
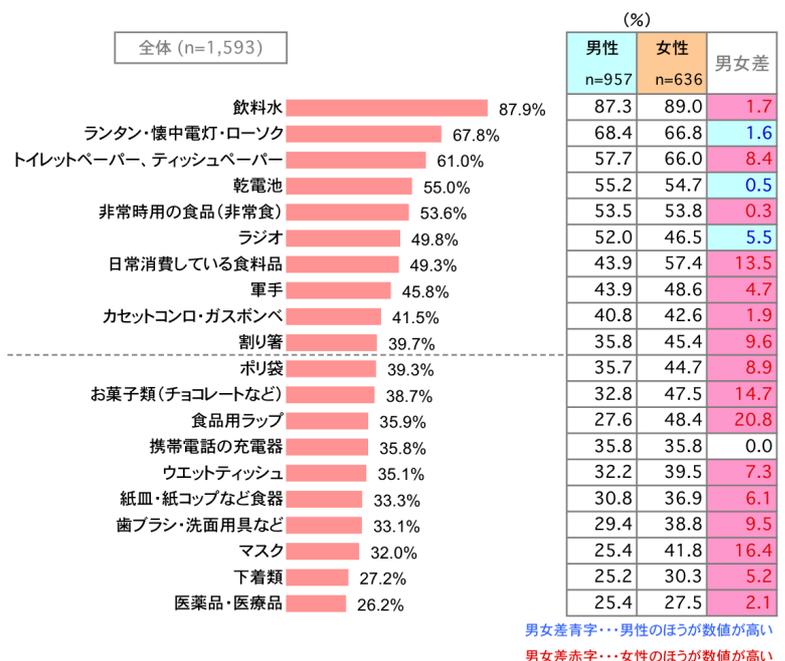


表3 「自宅では防災対策として、防災用品や生活必需品を備蓄していますか」 についての回答



※2016年のアンケートは、2016年6月24日～7月11日にかけて実施され、DIMS DRIVE モニター4,520人が回答したものです。表6内のデータも同アンケート。

表4 「自宅で防災対策として備蓄している防災用品、生活必需品を教えてください」 についての回答 (上位20項目)



■ 若年層で低い防災・備蓄への意識

災害時に備蓄しているものを聞いた調査の結果を性年代別に見てみました。すると、全体的に、若年層で数値が低く、中高年齢層で数値が高い傾向が顕著でした。経験を重ね、自分の体験でなくても災害を広く見聞きしているとされる中高年齢層に比べ、若年層では防災や備蓄への意識が薄いのもかもしれません。

また、たとえば「ランタン・懐中電灯・ローソク」は、最も数値が高かったのが70代以上男性の81.9%で、最低だった30代男性の41.2%とは40.7ptも差があります。「ラジオ」も、男性の70代以上では68.4%、30代では29.4%で、その差は39.0pt。「ランタン・懐中電灯・ローソク」や「ラジオ」は日常生活でも若年層には縁遠く、災害時に使うシーンが想像しにくいとも考えられそうです。

表5 「自宅で防災対策として備蓄している防災用品、生活必需品を教えてください」 についての回答（性年代別）

	合計(n)	備蓄している防災用品、生活必需品									
		飲料水	ランタン・懐中電灯・ローソク	トイレ用ペーパー、ティッシュペーパー	乾電池	非常時の食品(非常食)	ラジオ	日常消費している食料品	軍手	カセットコンロ・ガスボンベ	割り箸
全体	1593	87.9	67.8	61.0	55.0	53.6	49.8	49.3	45.8	41.5	39.7
男性-20代	5	80.0	80.0	40.0	60.0	60.0	20.0	20.0	0.0	20.0	40.0
男性-30代	51	74.5	41.2	43.1	31.4	52.9	29.4	41.2	25.5	23.5	23.5
男性-40代	186	87.1	56.5	54.8	45.2	46.2	39.8	46.2	30.1	30.6	31.7
男性-50代	298	88.9	68.5	54.0	52.7	54.0	50.0	39.3	35.9	43.6	31.9
男性-60代	240	87.1	73.3	58.8	62.1	51.3	57.5	45.0	53.8	43.8	38.3
男性-70代以上	177	88.7	81.9	70.1	67.2	63.3	68.4	49.2	65.0	48.0	46.9
女性-20代	11	72.7	63.6	54.5	54.5	63.6	36.4	63.6	45.5	45.5	54.5
女性-30代	77	87.0	57.1	57.1	44.2	53.2	31.2	49.4	37.7	28.6	32.5
女性-40代	194	86.6	63.9	62.9	53.6	51.0	40.7	58.8	39.7	32.0	39.2
女性-50代	209	89.5	68.4	68.9	55.5	56.0	48.8	58.4	50.2	52.6	48.8
女性-60代	98	95.9	71.4	70.4	56.1	53.1	58.2	56.1	59.2	51.0	58.2
女性-70代以上	47	89.4	78.7	74.5	70.2	55.3	63.8	61.7	74.5	46.8	48.9

	合計(n)	備蓄している防災用品、生活必需品									
		ポリ袋	お菓子類(チョコレートなど)	食品用ラップ	携帯電話の充電器	ウエットティッシュ	紙皿・紙コップなど食器	歯ブラシ・洗面用具など	マスク	下着類	医薬品・医療品
全体	1593	39.3	38.7	35.9	35.8	35.1	33.3	33.1	32.0	27.2	26.2
男性-20代	5	0.0	20.0	20.0	60.0	20.0	40.0	40.0	20.0	20.0	0.0
男性-30代	51	25.5	29.4	25.5	21.6	33.3	21.6	15.7	17.6	17.6	19.6
男性-40代	186	25.3	34.9	23.1	30.1	25.3	24.2	22.6	18.8	18.8	17.7
男性-50代	298	28.9	29.5	21.1	33.9	28.5	27.5	24.5	21.5	19.8	22.8
男性-60代	240	37.5	32.5	27.9	39.2	32.1	32.1	33.3	29.6	27.1	24.6
男性-70代以上	177	59.9	37.9	43.5	44.1	45.8	44.1	42.9	35.6	40.7	41.2
女性-20代	11	45.5	54.5	54.5	36.4	27.3	45.5	45.5	45.5	45.5	45.5
女性-30代	77	37.7	42.9	32.5	33.8	40.3	33.8	37.7	31.2	26.0	24.7
女性-40代	194	38.7	50.0	41.8	30.4	40.7	35.1	30.4	40.7	28.4	22.7
女性-50代	209	45.9	46.4	51.7	43.5	35.9	35.4	41.6	42.1	27.8	25.8
女性-60代	98	49.0	49.0	66.3	31.6	46.9	42.9	42.9	49.0	35.7	30.6
女性-70代以上	47	66.0	44.7	48.9	36.2	36.2	42.6	53.2	46.8	42.6	48.9

※n=30未満は参考値 全体 ■+10% ■+5% ■-5% ■-10% (%)

■ 安否確認手段としてLINEが3位にランクアップ

災害時の安否確認の手段として何を使用する(予定)かを聞きました。すると、1位は「携帯電話の通話」72.9%、2位「メール」45.3%、3位「LINE」29.0%という結果に。携帯電話やスマートフォンで可能な手段が上位3項目を占めました。続いて、4位「固定電話」23.4%、5位「災害用伝言ダイヤル(171)」21.5%、6位「公衆電話」9.1%の順になりました。

2016年の調査結果と比べると、6位までの項目は変わりませんが、「LINE」と「災害用伝言ダイヤル」の順位が入れ替わっていました。大阪府北部地震の際にもLINEの利用者が増えたことが話題になりました。SNSを利用すると、一度に複数の人に情報発信できるメリットがあるようです。反面、不確かな情報やデマが拡散されやすいとも言われています。

性年代別では、それぞれに特徴がうかがえました。「携帯電話の通話」「メール」「固定電話」は高齢層で高く、若年層で低い傾向が見られます。特に「携帯電話の通話」「メール」は女性で、「固定電話」は男性で、年代による差が顕著でした。

反対に、「LINE」「Twitter」は、若年層の特に女性で高くなっていました。性別や年代による通信手段の違いは、災害時、情報格差の元になるかもしれません。

表6 「家族や友人などとの安否確認に、どのような手段を使用しますか/使用する予定ですか」 についての回答

手段	性年代別			2016年トップ6 全体(n=4,520)
	男性 n=2054	女性 n=1293	男女差	
携帯電話の通話	72.9	72.9	0.0	1位 携帯電話の通話 66.1
メール	47.2	42.3	4.9	2位 メール 44.2
LINE	24.7	35.8	11.1	3位 災害用伝言ダイヤル(171) 25.0
固定電話	24.4	21.8	2.6	4位 固定電話 24.4
災害用伝言ダイヤル(171)	20.4	23.4	3.0	5位 LINE 20.1
公衆電話	9.3	8.7	0.5	6位 公衆電話 12.2
災害用伝言板(web171など)	8.5	7.4	1.1	
スマホの防災アプリ	6.0	4.6	1.4	
Facebook	4.3	4.0	0.3	
Twitter	3.1	3.9	0.8	
その他	1.4	0.8	0.6	

男女差青字・・・男性のほうが数値が高い
男女差赤字・・・女性のほうが数値が高い

《 性年代別 》

	合計(n)	携帯電話の通話	メール	LINE	固定電話	災害用伝言ダイヤル(171)	公衆電話	災害用伝言板(web171など)	スマホの防災アプリ	Facebook	Twitter	その他
全体	3347	72.9	45.3	29.0	23.4	21.5	9.1	8.1	5.5	4.2	3.4	1.1
男性-20代	18	50.0	22.2	61.7	5.6	33.3	5.6	16.7	0.0	11.1	22.2	0.0
男性-30代	123	76.4	40.7	32.5	11.4	13.8	8.1	6.5	4.9	5.7	10.6	1.6
男性-40代	423	68.1	41.1	27.0	22.5	17.5	9.2	7.8	5.4	3.1	3.1	1.9
男性-50代	681	73.1	48.6	26.3	20.6	20.7	9.0	9.0	6.5	4.8	2.9	1.5
男性-60代	512	72.7	48.8	24.4	24.6	20.3	7.0	7.6	6.1	3.7	2.1	0.8
男性-70代以上	297	79.8	54.2	13.1	42.4	25.6	14.5	10.4	6.7	4.7	1.0	1.3
女性-20代	37	54.1	13.5	59.5	10.8	18.9	2.7	16.2	10.8	2.7	18.9	2.7
女性-30代	161	68.3	36.6	41.0	18.0	21.1	7.5	9.9	2.5	5.0	7.5	0.6
女性-40代	424	73.1	42.0	36.8	21.2	21.0	9.7	9.0	4.7	4.2	4.2	0.2
女性-50代	408	71.8	42.6	38.5	20.3	25.0	9.6	4.9	5.1	4.2	2.7	1.7
女性-60代	189	76.7	51.3	24.9	27.0	30.7	7.9	7.4	5.3	3.7	1.6	0.0
女性-70代以上	74	87.8	45.9	20.3	33.8	16.2	6.8	2.7	1.4	1.4	0.0	0.0

※n=30未満は参考値 全体 ■+10% ■+5% ■-5% ■-10% (%)

■ おすすめの備蓄食は…調理しなくていいもの、食べなれておいしいもの！

【災害時こそ味は重要！】

- 簡単に軽いものを備蓄します。ビスケットやクラッカーは最適です。(男性・70代以上)
- レンジ・湯せんをしなくてもいいレトルト&缶詰、冷たい水でも作れるカップめんを置いておく。お菓子があると精神的に安定するので、定期的にまとめ買いしておく。(女性・30代)
- 避難時にはビタミン不足になると聞いたので、野菜ジュースは缶入りのものを備蓄している。(女性・50代)
- 飲むゼリーは手軽に買って腹持ちがいいので、消費期限を確認しながら買い足しています。(女性・40代)
- グラノーラがおすすめ。長期間保存ができ、そのままでもおいしく、栄養バランスもよい。(女性・50代)
- ふだん食べておいしいものを非常食にすることをお勧めします。災害時のストレス下で唾液が出にくい中、食べられない&おいしいと思えないものを食べることはさらなるストレスを招きかねません。(女性・50代)

【生活水】

- トイレなど飲用以外用として、給湯器からお湯が出るまでの流水をペットボトルに溜めておく。何本か溜まったら古い順から洗濯に使っていくので無駄にならずオススメ。(女性・40代)
- 浴槽のお湯は入浴前に入れ替え、常に浴槽が水で満たされている状態にしている。(男性・70代以上)

【防災グッズ・日用品】

- 地震時はベッドの横に履物が必要。物が散乱し素足で歩けない。(男性・60代)
- 携帯ラジオが大変役に立ちました。スマホでも情報は取れますが、充電が心配なので。(女性・40代)
- 東日本大震災後、乾電池の大きさを変えるアダプターがとても役に立った。(男性・40代)
- 大きなビニール袋はゴミ袋だけでなく、雨具代わりやシート代わりにもなって便利だった。(女性・30代)
- 食品用ラップ・古新聞はがあると便利。(女性・50代)
- 洗口液やウェットティッシュはとても便利だと思います。(女性・50代)
- 阪神・淡路大震災のとき、キャンプ用品を玄関脇に置いていたのですぐに炊き出しに使えた。(男性・70代以上)

【困ること、気になること】

- 飲料や食品に消費期限があるので、期限内に消費し、補充しなければならないのが面倒。(男性・70代以上)
- いつの間にか消費期限切れになっている。長期保存できる食品がもっと増えたらいいなと思う。(女性・60代)
- 何をどのくらい用意すればいいのか、どの程度のサイクルで買い替えればいいのかわからない。(女性・50代)
- どんなに用意しても家が倒壊したら厄介。備蓄品をどこに置くかが問題。(女性・50代)
- 実際のときには避難することを第一に考えるので、備蓄品を持っていく余裕がない。大阪で実際に地震が起こったとき、手に持っていたのは携帯と鍵だった。(女性・30代)

備蓄品について、お勧めのものや、困ること、気になることを聞きました。食品については、水や電気が使えなくても簡単に食べられるものを勧める声が。と同時に“食べなれていておいしいものがおススメ”という回答には思わず納得させられました。困ることや心配なことでは、消費期限を気にする声が多数。一方で、そもそも「何をどのくらい用意すればいいのか」わからないという声も少なくありません。近年、異常気象による想定外の災害は珍しくありませんし、巨大地震が起きたらと思うと心配です。9月1日は防災の日。この機会に防災への関心を高め、日頃の備えを心がけたいものです。

株式会社プラネットとは <https://www.planet-van.co.jp/>

メーカー、卸売業、小売業がサプライチェーンとして連携し、生活者へのサービス向上を目指して進化を続ける日本の消費財流通を、情報インフラ運営で支えている上場企業(証券コード2391)です。

From プラネットとは https://www.planet-van.co.jp/news/from_planet.html

株式会社プラネットが発信しているニュースレターです。消費財や暮らしに関する旬なトピックスなどをご紹介します。

本件に関するお問い合わせ先

(感想や取り上げてもらいたいテーマなどもお寄せください)

株式会社プラネット 広報部(角田、岡田)

Tel : 03-6432-0482 / E-mail : koho-pr@planet-van.co.jp